

教育研究所だより

No.224 令和3年6月18日 【発行者】守山市教育研究所 所長 脇阪 久徳
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター 3・4階)
TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237
E-mail:kyoikukenkyu@city.moriyama.lg.jp
HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyu_index.html

『希望』は時代を超えて

守山市教育長 向坂 正佳



教育長に就任して間もなく、新型コロナウイルス感染症の第4波と言われる感染拡大が滋賀県にも迫り、4月15日には、またもや「警戒ステージ」となりました。

多くの命の息吹が心躍る季節に、今年こそはと期待していた人々の願いは残念ながら打ち砕かれ、人々の気落ちする期間がまだ当分続きそうです。本市の教育をつかさどる立場の者としては、教育を進めるうえで様々な制約をかけざるを得ないことについて、子どもたちと保護者の皆様をはじめ、教育を支えてくださるすべての関係者の皆様に本当に申し訳ない思いでおります。

子どもたちは、学校園という多様な個性が集う協働の場に自分の身をゆだねることで、喜怒哀楽を繰り返しながら、かけがえのない貴重な体験を積み重ねています。そこでは、一人37兆個と言われる細胞が日々順次入れ替わるという精巧なプログラムのもと、それぞれが多様な他者と触れ合うことによって、脳の神経細胞が計り知れないネットワークを創り続け、また新たな個性に磨きをかけるという作業が脈々と行われています。その個性が満開に花開き、充実した人生だったと実感できる時を目指して人は生きているのかもしれませんが。

まだまだ苦しい状況が続くと思いますが、医学の発展に貢献した歴代の研究者が時代をつないでバトンタッチし、英知を結集して開発したワクチンや治療薬が皆さんのもとの届くのも、そう遠い日ではありません。

特に今回のワクチンは、偉大なウイルス科学者であるカタリン・カリコ博士が、メッセンジャーRNAの技術を使って開発した画期的なものです。そこには、山中伸弥博士のiPS細胞研究とのつながりがありました。長い年月をかけて基礎研究を積み重ねたからこそ、たどり着いた奇跡の産物であることに間違いありません。

私たちは、今こそ歴史が積み上げてきた先人の偉大な業績に感謝するとともに、このつらい期間を人類みんなで乗り越えた過程を、次の世代に誇り高く伝える使命があるのではと感じます。

人間は別名「ホモ・エスペランス」と呼びます。この「エスペランス」の意味は『希望』であるとも言われています。おそらく人類は、今のような科学が発達せず、ネットワークがない太古の時代から、どんなにみじめでも、どんなに苦しくても、近くに存在する人たちが協働しあって、『希望』を頼りに生き抜いてきたのではないのでしょうか。私は、そんな思いを伝えられる教育者でありたいと思うとともに、そんな思いを抱いてくれる若者に育ってほしいと願っています。

ある神父さんの話から。

大勢の人を前に神様の話をしていました。するといつも最前列、中央の席に座って熱心に聴いている高齢の女性の姿が目にとまりました。神父はいつもその女性の姿に励まされるように講演をしていました。ある時、講演会の主催者に「あの女性のおかげで私は話し続けることができました。あの方はどういう人なのですか」と質問したところ、「あの方は全く耳が聞こえないんです。じっと顔を見ているだけなんです」という答えが返ってきて、神父は大変驚いたといいます。その女性が手話を通して言うには「私は耳が聞こえないけれども、じっと相手の顔を見ていれば、その人の言っていることが真実かどうかよく分かります。だから、神父さんの話を信じる気持ちになったのです」と。これを聞いた神父は「ああ、この女性の心の美しさによって自分の心もまた美しくされた」と心を打たれたというのです。

昨年来、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、普段とは違う生活様式、外出自粛などが強いられ、ストレスから人間関係もぎすぎすがちです。しかし、この話のように、言葉を発せずとも相手に共感しながら耳を傾け続けることによって、相手との間にきずなが生まれ、温かい人間関係を構築することができます。

新型コロナウイルスとの戦いは、長期戦になりそうです。それでもいつかは終わります。コロナが終息した後は、以前より温かい社会になったよねと言えるように、相手の言葉に耳を傾け、居心地の良い人間関係を築き上げたいものです。

本研究所におきましても、保護者や先生方の声に耳を傾け少しでも力となれるよう、取組を進めてまいりますと考えております。今年度も教育研究所の事業にご理解とご協力をお願いします。

参考文献：人生を照らす言葉 鈴木秀子より

◇ 研究に関して ◇

- 教育に関する調査研究（担当：天沼）
「通常の学級における発達障害の可能性のある児童生徒理解やその支援方法に関する調査」
- 指導力向上に関する研究1（担当：天沼）
「“児童がプログラムを作成する”授業実践」
—プログラミング教育で育む資質・能力の向上—
- 指導力向上に関する研究2（担当：中道）
より多くの子の目が輝く“学級づくり”、“授業づくり”の創造をめざして —ユニバーサルデザインの考えを取り入れた実践の工夫—
(3つの研究を進めてまいります。)

◇ 教育相談 ◇

- 不登校や子育て等に不安を抱える保護者や児童生徒を対象に、電話および面接による相談を行い、必要に応じて他機関とも連携を取り、適切な対応を図ります。また、学校訪問により、児童生徒の観察や支援を行います。
- ◇ 適応指導(くすのき教室) ◇
不登校をはじめ、学校で不適応をおこしている児童生徒を対象に、適応指導および教育相談を実施することにより、学校生活への復帰を支援します。また、学校や他機関との連携や保護者への支援も行います。

—教育研究所の職員紹介—

- 【所長】脇阪 久徳 【係長】中道 裕恵 【研究員】天沼 翔太
- 【小学校英語教育推進員】浦谷 昌章 【教育相談専門員】西川 典子
- 【相談員】中川 恵 【相談員】小野田 祐美子
- 【相談員】北中 康隆 【指導員】糸井 晶子



お知らせ

①教育雑誌・教育書籍の貸し出しについて

教育研究所では、教育雑誌や教育関係書籍の貸し出しを行っています。バックナンバーも多数置いています。貸出の方法としては
1. 教育研究所に直接来ていただく。(貸出簿に記入する)
2. お電話で連絡をいただき、逡送で本と貸出簿をお送りしますので、逡送でお返しくください。
なお、逡送便は、市内教育関係者のみの対応となります。

『指導と評価』



『月刊学校教育相談』



②守山市せんせい情報共有の窓に教育研究所のコーナーがあります。

守山市教育研究所作成の「研究発表動画」や「研究紀要」、「市内教職員による授業の動画」などを“守山市せんせい情報共有の窓”に随時掲載しております。今後の教育活動にぜひご活用ください。
(市内教育関係者のみ閲覧可)